令和３年度第３回松江市総合教育会議

日時：令和４年３月23日（水）14：00～15：00　　場所：第二常任委員会室

出席者：松江市長　　上定昭仁

松江市教育長　　藤原亮彦

松江市教育委員　多々納道子、塩川寛、金津式彦、原田順子

市長部局　　政策次長 佐目元昭、政策企画課長 井原崇博

政策企画官 今岡広樹、政策係長 本田裕美子

教育委員会事務局　副教育長 寺本恵子、副教育長 成相和広

教育総務課長 玉木一男、教育総務課教育指導官 青山求

皆美が丘女子高校事務長 岸本亮子

皆美が丘女子高校校長 中村訓子

学校管理課長 松本真一、生徒指導推進室長 岸本行夫

発達・教育相談支援センター所長 山本勉

生涯学習課長 渡部寛子、中央図書館事務局長 小林久美子

子育て次長（子育て政策課長）青木佳子

子育て政策課保育指導官 澤田真理子

人権施策推進課教育指導官 藤井康二

教育総務課総務係長 今田浩二

○寺本副教育長

そうしますと、皆様お揃いになられましたので、始めさせていただきます。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。これより令和３年度第３回松江市総合教育会議を開催したいと思います。本日、司会を務めさせていただきます副教育長の寺本でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、上定市長よりご挨拶申し上げます。

○上定市長

皆さん、こんにちは。皆様、お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。総合教育会議はこれまで皆美が丘女子高校、また、玉湯学園でも開催してま

いりました。実際に児童生徒が教育を受けている現場も見ていただいて、その中でいろいろな気付きを与えていただいているということに非常に感謝しております。

今回は松江市の教育大綱の改定の時期にあたるものですから、皆様からたくさんのご意見もいただきまして、やっと形になってまいりましたので、今日はその議論をさせていただければと思っております。

元々教育大綱自体は、平成27年につくったものを平成30年に改訂したものが今回このタイミングでちょうど改定の時期を迎えたということになるのですが、松江市の総合計画、これは松江市全体が歩んでいく道標となるもので、この期間を2030年まで、令和4年度から8年間という設定を置いております。そして、それに合わせる形で今回、令和4年度からの教育大綱をつくるということで、期間的には非常に長いのですが、逆に言いますと、この時間的な、我々が今後進んでいく道のり、8年後まで考えたときに、一体どういった形での教育があるべき姿なのかという思いを、地に足は着けながらですけれども、理想も語りながら、そして未来を見据えて、子供たちの教育について考えるというような、そういった少し大きい命題を持って今回臨んだところであります。

皆様からいただきましたご意見を反映させていただいたもので今日は提示をさせていただきますけれども、是非今日も短い時間ではあるのですが、忌憚のないご意見をいただきまして、最終的に改定を進めてまいりたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

○寺本副教育長

ありがとうございました。

それでは、早速でございますが、議事に移らせていただきたいと思います。本日の議事は松江市教育大綱の改定についてでございます。

それでは、内容につきまして、事務局のほうから説明をさせていただきます。

○玉木教育総務課長

失礼いたします。教育総務課の玉木でございます。それでは、私のほうから教育大綱の改定についてご説明をいたします。

先ほど冒頭の市長の挨拶の中にもございましたが、教育大綱につきましては、松江

市の目指すべき教育の方向性、それを実現するための方針、重点的な取組を示すものとして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3、第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度に策定をいたしました。

その後、平成 30 年度に改定を行っておりますが、本年の 3 月 31 日が計画期間の終了日となっております。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3、第 2 項に基づき、本総合教育会議にて協議をし、改定するものでございます。

改定にあたりましては、昨年 11 月に開催をいたしました教育委員会協議会での協議から本格的に議論を始め、市長や教育委員との協議を踏まえ素案を作成し、2 月には小学校・中学校の校長会、市議会議員、松江市 PTA 連合会、社会教育委員へ素案を提示しご意見をいただき、本日の議案の改定案、資料 1 を作成したものでございます。

なお、参考として、現在の教育大綱も資料 2 ということで配布をさせていただいております。

本改定案につきましては、今議会に議案として上程されています松江市総合計画と整合を取りながら、教育等の振興に関する施策の目標や方針を大綱としてまとめたものでございます。

改定案の策定にあたりましては、従前の文字だけのものではなく、イメージが湧くように写真の掲載など、工夫をして策定をしております。

それでは、大綱案に沿って説明をいたしたいと思います。資料 1、松江市教育大綱の 1 ページをお願いいたします。

策定の趣旨につきましては、先ほど説明をいたしました通り、本市の教育理念やそれを実現するための方針、重点的な取組を示し、実現していくために策定するものでございます。

大綱の期間でございますが、総合計画との整合を図るため、2022 年度、令和 4 年度から令和 11 年度、2029 年度の 8 年間とするもので、半期が終了いたします令和 7 年度末に見直しを行うものでございます。

なお、状況変化に即応して、適宜必要に応じて見直しを行うこととしたいと思っております。

続きまして、基本理念についてでございます。総合計画で謳われている将来像「夢を実現できるまち　誇れるまち　松江」につながり、夢を実現できる人を育てていくという思いから、『DREAMS from MATSUE～ふるさと松江から、夢を実現し未来を

切り拓く～』としております。

2ページに、大綱の位置付けとイメージを掲載しております。基本方針として、『生きる力を持った子どもたちの育成』、『一人一人の育ちと学びを支える体制づくり』、『子どもたちの教育環境の充実』、『生涯にわたり心豊かに学び合う環境づくり』の4つを柱としております。

3ページ以降に、各基本方針に関する施策事業を掲載しております。1番目の柱、『生きる力を持った子どもたちの育成』につきましては、6つの項目、『夢や希望、豊かな心を育む教育の推進』、『確かな学力の育成』、『ICTを活用した教育の推進』、『自分と他者を大切にする心の育成』、『健やかな体づくり』、『国際感覚を持ち、社会を担っていく人材の育成』。

それから7ページに、2つ目の柱、『一人一人の育ちと学びを支える体制づくり』。こちらについては3つの項目、『特別な支援が必要な子どもに対する支援体制の充実』、『子どもたちの学びの保障の充実』、『困難を抱える青少年への支援』。

それから8ページに、3つ目の柱、『子どもたちの教育環境の充実』。こちらについては4つの項目、『学校・家庭・地域が連携・協働した教育環境づくり』、『安全・安心で良好な学校づくり』、『デジタル技術を活用した教育環境の整備』、『学校における働き方改革の推進』。

それから10ページに、4つ目の柱、『生涯にわたり心豊かに学び合う環境づくり』。こちらは3つの項目、『生涯学習を推進する環境づくり』、『公民館を拠点とした地域を担う人づくりの推進』、『総合文化センターを拠点とした文化振興と読書活動の推進』を掲げ、各施策に取り組むものでございます。

本総合教育会議にて策定をした後は、速やかに市のホームページに掲載をし、学校への配布など広報・周知に努め、ご理解とご協力をいただきながら取り組んでまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○寺本副教育長

ありがとうございました。

それでは、早速議論のほうを進めてまいりたいと思います。質問やご意見など、皆様方から頂戴したいと思います。まず、市長よりご発言いただいてよろしいでしょう

か。

○上定市長

私は中を当然見ているものですから、新しい発見があったわけではないのですが、できるだけたくさん写真を入れて、皆さん手に取っていただいて見ていただいて、「イメージできるな」というものにしているつもりです。

そう言いつつ、3つだけ言わせていただくと、3ページのIで、『夢や希望、豊かな心を育む教育』というのが出てきます。これ、すごく重要だと思っているのは、ふるさと教育というのが、松江にとても良いものがたくさんあるのに、それがなかなか使われていないというか、せっかくすぐそこに良いものがあって、それが教育の題材になるのに、なかなかそれが有機的に今まで生かしきれていなかったというところがあると思うのです。

それを3つ申し上げたいと思っていまして、1つは、少し広めに捉えていただきたいのですが、松江城です。国宝松江城があり、江戸の文化があり、お茶がありという、少し広がりはあるのですけれども、実際、松江城授業プログラムというのがあるわけですよね。小学生に必ず松江城なり歴史館を訪ねてもらって、その歴史的背景、松江がなぜこういう都市になったのか、我々の先祖様がどういう人だったのかというのが分かり、それによってふるさと教育を受けるという機会になるわけですね。それが1つ。

もう1つは、今回改修をしますが、プラバホール。パイプオルガンだけではないのですけれども。まだこれは授業の形にはなっていないのですが、プラバホールのパイプオルガンを使った形での音楽教育など。私もたまたまこの間、閉館になる前のラストコンサートにも行ってきたのですけれども、松江出身の方で、今実際にプロのオペラ歌手をやっていらっしゃる方、バリトン歌手をやっていらっしゃる方が実際戻ってこられて、凱旋をされるわけです。そういった方は世界でも活躍されていらっしゃる方で、そういう方に実際会えるだけでも素晴らしいことなのですけれども、それが地元の出身の方で、プラバ少年少女合唱隊から育ったというと、「おおっ」と思うわけですが、なかなかそれが松江市の皆に浸透しているわけでもないということもあり、夢を育むという意味でもすごく良いハードがあるなというように思っているところです。

もう1つは、若干飛ぶのですけれども、スサノオマジックです。これはスポーツと

いう意味での教育というほど硬いものではないのですが、多分皆サッカーやるにしても、野球やるにしても、バスケやるにしても、最初は遊びで楽しくて始めて、しかし、それを突き詰めていくとやはり「勝ちたい」とか、その面白さの先には、努力をしたことによって更にまた面白くなるという、そういう健やかな体というのもあるのですけれども、精神的な学びも含めて、スポーツを通じて学ぶことが多いと思うのです。そういったプロの、一流の、今、西日本で第2位の選手が間近にいて、学校にも来ていただいてというのは素晴らしい環境だと思うのです。そういうところをうまく組み立てながら、何となく今までは、例えば「スポーツがあります」、「お茶文化があります」、「プラバホールというものが 61 年からあります」というのがつながっていなかったのです。それがつながりを持つことによって、これは子供たちだけでは本当はないのですけれども、色々なところに波及して、何かいろいろなところがうまくつながってサイクルになっていくのではないかなというような期待感を持っております。今回は切り口として教育、特に子供たちというところが強いのですが、生涯教育ももちろんあるのですが、その中で松江に育まれている良いものを残し、伝え、発展させていくというような循環を生み出していきたいなというような思いで、今回の教育大綱には気持ちを込めさせていただいております。皆様からもご意見をいただければと思います。

○寺本副教育長

ありがとうございました。多々納委員さん、よろしいですか。

○多々納委員

今回の松江市教育大綱は、つくる過程において、教育委員会でも先ほどご説明がありましたように何回も協議をしたのですけれども、教育委員会だけではなくて、校長会の皆さんや PTA や社会教育の方たち、あるいは市会議員の方たち、できれば当の学ぶ子供たちにも少し参加してほしいようなところもあるのですけれども、時間的なこともありますので難しかったと思います。そのようにして全員参加に近い形でつくり上げたということと、皆さんからいろいろなご意見頂戴して、非常にビジュアルで読みやすい、分かりやすいものにできたと思うのです。

この教育大綱を教育関係の一部のものだけではなくて、全市民に「松江市の教育は

こうです」ということをしっかりご理解いただきたい。そして、当の学んでいる子供たちにも、これを1時間でも2時間でもかけて学習する機会があると、子供たち自身も「そうなんだ、自分たちはこういう方向性でいくと夢を実現できるんだな」という、やはりそこがすごく大事だなと思います。そういう点から見ますと、非常に良い教育大綱ができあがりつつあるのではないかなということを認識いたしました。

あと1点、細かいことなのですけれども、5ページの一番上の『ICTを活用した教育の推進』のところに、「1人1台のタブレット端末により、理科の観察や体育での体の使い方等」というところで、校長会のほうからご意見があって、「こういう理科とか体育とか、例示がなくても良いのではないか」というようなご意見があったようですけれども、やはり例示があったほうが分かりやすいし、理解しやすいということで、理科とか体育が入っています。多分、発言の中には、「理科や体育ではなくて、全部の教科で」という意味があったのではないかなと思うのです。そういう観点から「例示を」ということになると、理科や体育プラス算数・数学、国語…と多くなります。松江市の子供たちは、全国の学力調査から見ると、算数・数学、国語の辺りに課題があるので、そういうところもやはり「このタブレットで学習が進むんだよ」ということが分かるとすごく良いのではないかなと思います。

そう申しますのは、松江市に電子黒板を入れていただくというので、導入前の年に研修会とか、電子黒板を使った授業参観を見せていただきました。中学校の数学ですごく良い授業をされて、「これなら使う効果があるな」というのが実感できましたので、その辺りのことで少し加えていただくと良いかなと思います。

もしスペースが足りなければ、体育は結構ほかの部分での記述があるので、ほかの教科を入れていただくと、いろいろなバランスが取れて良いのではないかなと思ったところです。これは可能でしたらということです。

○寺本副教育長

ありがとうございました。具体的な文言についてのご意見もいただきました。

金津委員、よろしくお願いいたします。

○金津委員

私は一応企業経営者でもある教育委員として、この大綱の策定に関わらせていただ

いて本当に良かったなと思っているのですけれども、まず、何が良かったかというと、私もこの『ふるさと』というキーワードと、『夢』というキーワードはとても重要なキーワードだなと思っていまして、それを生かしたものがつくれたのではないかなと思っています。

夢といった場合に、近ごろ確か結構話題になったはずなのですが、第一生命さんが毎年とるアンケートで、小中高生の将来なりたい1番が「会社員」ということがありました。、私がそれで思ったのは、やはりいろいろ夢を持ちにくい時代になっているのかなということを感じまして、だからこそこのように掲げることが非常に重要なのだと思っています。

ただ、従来の夢、私たちの世代からいう夢と、今後の若者たちの世代の夢というのは、やはり少し違ってきているのかなと思っていまして、価値観が大きく変化しているという背景があると思うのですけれども、最近の若い人は、「経済成長より気候変動対応が大事なんじゃないの」とか、「給料より休暇だ」とか、あと、「学力より SNS のフォロワー数がほしい」とか、本当に少し隔世の感を感じてしまったりもするのですけれども、そういった多様な価値観で、世代の価値観の違いも含めて、それぞれの価値観でそれぞれの夢が叶うまちになってほしいし、そういう教育になってもらえれば良いなと思うので、そういうところを踏まえた大綱になっているのではないかなと私は感じています。

それから、あと、『ふるさと』というキーワードも非常に重要で、そういう点からすると松江らしさというのも非常に出せた大綱になったのではないかなと思いますし、これは市長のご希望でも非常にあったと思いますし、あと、大綱の中からにじみ出る松江の持つ人と人の温かみというか、そういうのも少しにじみ出ているものにできたのではないかなと思っています。

ふるさとへの思いを本当に強く持ってもらいたいというのは、企業経営者の立場からすると危機感を非常に感じていまして、まず、県外進学した若者の7割がこの地に帰ってこないと言われていますし、企業を経営していると人手不足の深刻さというのがどんどん増しているのを身に染みて感じておりまして、やはりふるさとの思いを強く持ってもらう、教育を通じて持ってもらったり、先ほど市長が言われたような3つのことを通じたりして、何かキラキラした夢を持ってもらって、ふるさとに良い思い、強い思いを持ってもらって、出て行っても帰ってきてくれたり、残ってくれたりする、

そういう教育につながっていくと良いなと思っています。あくまでこれは実現することが大事であって、これが大綱をスタートにして、私も教育委員として、また、企業経営者として頑張っていかなければならないなというように思っています。

○寺本副教育長

ありがとうございました。

続いて原田委員、お願いいたします。

○原田委員

原田です。よろしくお願いします。

私も策定のときから関わらせていただいていますので、すごく分かりやすい大綱ができているのではないかなというように感じています。先ほどもありましたけれども、夢というのが、昔ですと、「あなたの夢は何ですか」、「花屋さんです」とか、そういう感じの夢を想像しがちなのですけれども、最近の子が抱いている夢というのは、そういう一言で片付くものではなくて、世界に出ていくような、ほかの人にも優しくできるようなとか、そういう具体的ないろいろな2つ3つ組み合わさったような夢を持っているような気がします。

そのように考えると、やはりそれは夢を叶えさせてあげるというのは無理なことではないと思います。例えば「お花屋さんになりたい」とか、「お医者さんになりたい」とか、「スポーツ選手になりたい」という夢だったら、「それは叶わないかもしれないよ」というところが出てくるかもしれないですけれども、そういう個人個人が持っている具体的な夢であれば、それを叶える手助けはこちらにも十分できるのではないかということで、これをつくりながら私自身の考え方がそのように変わっていったというところがあります。ですから、「夢を実現して未来を切り拓いていくというのは実現できることなんだ」というのを強く推していって良いのではないのかなというように感じていきました。

それから、少し細かいところになるのですけれども、ところところで「幼稚園の」とか、「幼稚園で」という文言が出てくるのですけれども、一般的にパッと読んでいくと、ここだけ「幼稚園」という言葉が出てくるのが少し違和感があるといいますか、では、「ほかのところはどこについて言っているのだろう」と思ったりとか、あと、「幼

稚園では」と書いてあるところが、「これは幼稚園だけのことではないな」というところが多々ありまして、3 ページのところ、一番最初の「幼稚園の生活の中で」というように書いてあるのですけれども、ここの項目に関しては、幼稚園だけではなくて、小学校や中学校やほかの学校の部分でも入ってくることではないのかなと思うので、敢えて「幼稚園」という言葉を出すのが良いのか、出すのであれば全部学校も含めて文字として出したほうが良いのではないかなと思いました。

5 ページの 5 番とか、6 ページの頭のところですとか、食の大切さのところとかいろいろ出てくるのですけれども、あまりそうやって区分けをしなくて良いのではないかなというように感じました。やはり教育の部分でもいろいろな課があると思うのですけれども、そこは常につながっていないといけないのではないかなと感じていまして、そのようにきっちり区分けしていく必要はないのではないかなというように私は感じました。

あと、前後して申し訳ないのですけれども、私は 1 ページの一番最後の「皆さんのご理解、ご協力をお願いします」という文言が付いたことが、私はとても良いことではないかなというように思いました。なくても良いのではないかという意見もございましたが、私はこれがあることによって、読んでいる人が「これは自分のことなんだ。自分もここに携わっていることなんだ」というのが認識できるというのがとても良いことなのではないかなというように感じました。

あと、すごく細かくて申し訳ないのですけれども、例えば 7 ページのように、大項目、中項目、小項目が全て 1 ページで終わっている部分は見やすいのですが、3 ページから始まっている最初の大項目『生きる力を持った子どもたちの育成』のように、中の項目が結構多いと、ページを跨いだ時にどこまでが区切りか分かりにくく感じます。全体的に、箇条書きになっている小項目のインデントを 1 個右にずらしたほうが分かりやすくてよいと思いました。

あと、項目ごとの間にもう少し空間があると、1 個 1 個の項目が見やすいので、パっと読もうとしたときに読みやすいのではないかなというように思いました。

以上です。

○寺本副教育長

ありがとうございました。

それでは、次に塩川委員、よろしいでしょうか。

○塩川委員

失礼します。松江市の教育大綱見直しということで、各関係機関からたくさんの意見等を集約していただきまして、皆さんおっしゃいましたけれども、松江らしい特色のある大綱ができたのではないかなと思っているところです。

特に良いタイミングといいますか、新しい市長、新しい教育長が就任されて、今年度いろいろなことがスタートした、来年度から大きな教育の指針になるのではないかなと、新しいスタートが切れるのではないかなという気がしております。

私は教員でしたので、私が在職のときも市教委から指針はあったと思うのですが、あまり意識したことがありませんでした。自分の学校のことで精一杯だったのですけれども、こうしていろいろなところから意見、それから実践を基にしてつくり上げられた教育大綱ですので、本当にこれが絵に描いた餅にはならないように、本当に生きた大綱、実効性のあるものになってほしいなと思っています。

そのためにはいろいろ手段があるとは思うのですが、学校現場、特に校長先生、それから教職員、それから保護者、そして先ほど多々納委員さんからもありましたように、児童生徒がいかにこの大きな松江市の指針である大綱をどれだけ日常意識していろいろ活動等をしていくのか、少しでも浸透できるような手立てが必要ではないかなと思っています。

ただ、どうすれば良いかというと今は分かりませんけれども、また事務局の方等と一緒に考えて、皆でつくり上げた教育大綱が実効性のあるものにしていけたらなと思います。

本当に松江らしい特色ある、どこに出しても恥ずかしくない大綱ではないかなと思っていますので、本当に活用できるように、皆さんで力を合わせていけたらなと思います。

1 つだけ質問です。2 ページのところで、松江市の総合計画の基本理念の『松江のジダイをつくる』とあります。この『ジダイ』がカタカナになっているのは、何か意味があったのですか。その辺りを聞き逃したかもしれませんけれども。

○上定市長

私が答えて良いですか。

2 つの意味を兼ねていまして、平成時代・令和時代の時代を我々がつくっていく。元々松江は古くからずっと栄えていたまちですけれども、その灯火を当然消すことなく、今後新しい時代を我々がつくっていかなければいけないという意味の『時代』、ピリオドという『時代』と、それからネクストジェネレーションの『次代』をかけていまして、つまり古くて良いものを我々の先人たちが、幸いにも我々は受け継がせていただいているわけですよね。そういう自然・伝統・文化はもちろんなのですけれども、先ほど少しおっしゃっていただいたような心の温かさだとか、東京では、昔はあったと思うのですけれど、それこそ戦争があって、「焼け野原から皆で立ち上がっていこう」みたいな、隣に醤油を借りに行く文化というか、そういうのが幸いにも残っている我々のマインドというのを思いやりの心、互いを敬う穏やかな気質というのを次の世代に引き継いで受け継いでいかなければという思いの 2 つを兼ねまして、カタカナにさせていただきました。

○塩川委員

そういう熱い思いが込められた言葉だということで、どこかに説明がほしいなと思いました。

○寺本副教育長

失礼いたしました。

それでは教育長、お願いできますでしょうか。

○藤原教育長

そうしますと、私からは、策定する側の立場に立っての感想なりということになっていくと思いますが、策定にあたっては、基本的にこの大綱の策定に関わる人をどれだけ増やしていけるかというのが 1 つポイントだったと思います。

それは、教育委員会に行って初めて教育大綱があるというのを私も知らなくて、「こういうのがあります」と言われて、「えっ」という話から始まって、今年で終わるなんて。要は、策定するときに関わる人がどれだけ増えるかということが、やはり認知度を上げていくことの 1 つのポイントになりますし、自分が言った意見がやはり反映さ

れるということを経験していくと、その後の興味・関心というのもつながっていくので、そういう関わる人をとにかく多くしたいということでございます。

それから、8 年間という長い期間の大綱ということもありますので、大綱という名前の通り、大きな方針を示すものであるべきものでございますが、お気付きのように個別具体のこともこの計画の中には混ざっておりまして、そこのところが若干私の中では気になっているところですが、あまりに大綱という形で書くと、「どこのをやったのか分からない」ということになりますので、「松江らしい」といろいろ言っていただきましたが、そこを踏まえるとこういう形かなというように思っています。

それから、もう 1 つは、やはり教育の現場が ICT も含めていわゆる変革の時代を迎えておりまして、その中で 8 年間という計画期間でこの大綱をつくりました。敢えて真ん中で半期の終了で見直しをというのは当たり前のことなのですけれども、「教育現場の状況変化に即応して適宜必要な見直しを行うこととします」というのを入れたのは、その辺りがやはり「こういうことのほうが正しい」とか、変わったことに即応できるような計画にしたいという思いもあったので、こういう言葉を入れてあります。

したがいまして、何かそういう気付きがあったときに、この総合教育会議の場で議論をいただいて、適切な形で見直しができればと思っております。大体こういう計画というのはつくるのが目的になるパターンが多いのですが、そうならないようにするのが今回の策定の一番の趣旨だというように思っていますので、引き続き皆さん方に関わっていただいて、この大綱は本当に役に立つ、市民の皆さん、子供たちはもとより、しっかり広報して、「こういう方針で動いているんだ」ということを是非とも浸透させていければ良いなというように思っております。

私からは以上です。

○寺本副教育長

ありがとうございました。

皆様から大綱の策定にあたっての感想なども含めてご意見をいただいたところでございます。ご発言の中でも、「是非ともこれを実現していくところが大切だ」といったようなお話もありました。総合教育会議は、来年度におきましても、やはりテーマを絞りながら議論を深める場としたいと思っております。

来年度に向けて、またこういった理念の下、どういったテーマで意見交換を深めて

いくことが良いのかというところについてもお考えなどをお聞かせいただければ大変ありがたく思います。是非ともまた皆様お一言ずつお考え等をお聞かせいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○上定市長

今後、総合教育会議でお話をしていただきたい内容という話ではない文脈で申し訳ないのですけれども、今、各教育委員の皆様からいただいたご意見を聞いて、少し私もいくつか思ったことがありまして、最後のまとめでも良かったのですが、まず、金津さんにおっしゃっていただいた県外進学者の7割が帰ってこないということです。

私もそのうちの一員だったものですから、ただ、私は政策投資銀行の松江事務所長として 26 年ぶりに帰ってきたのですけれども、いつか帰ってきたいというような思いはずっと抱いていました。

少し話が飛ぶのですけれども、私は大学生のときに福岡におりまして、福岡にいたときに家庭教師をやっていたのですけれども、小学生の中学受験の家庭教師をやっていたのです。

そのときに、その小学6年生が、「なりたい夢はあるのか」と言ったら、「特に今は何も考えていない」と。お父さんは司法書士だったので非常に堅い感じだったのですけれども、「先生、何で勉強しなきゃいけないの」と言われたのです。「だって、なりたいものが決まってないんだろう」と。そうしたら、「いや、なりたいものが急に出てきたときに、なれるようにしておこうよ」と私は言ったのです。「だから別に何をやっても良いんだ。勉強することは悪いことじゃないし、いろいろなことが社会のことが知れるし、それによって自分が好きなやりたいことも見つかるかもしれないし、実際になるときに学力が必要なものだったり、資格が必要な職業もあるから、勉強しとくに越したことはないよ」と言って、とりあえず無理やり勉強をさせていたのです。

学力はすごく大切だと思うのです。言っていただいた通り、特に国語、算数のテストの成績がなかなか芳しくないというのは島根県全体の傾向としてあるのですけれども、学力を育むことによって養われる自信であったり、努力が報われるというのが、スポーツなどはもちろんそうだと思うのですけれども、楽器だってそうだと思うのですけれども、学力というのもそこにつながっていくので、これを何とかしたいというように思っています。

教育長と一緒に頭を悩ませておりますけれども、やはりいわゆる受験戦争という観点でいくと、本当は高校生の話になってしまうので若干ずれるのですけれども、私は娘が2人、東京で育っていまして、東京で例えば早慶とかに行こうと思ったら、予備校がまずあるわけです。皆そこの予備校に行き、もちろん先生から普通に授業を教わるわけですけれども、完全に早稲田・慶応の問題に絞ってやるわけです。

ですから、そういう意味では国語と英語だけで数学は捨てる、みたいなことがまずでき、しかもチューターとして、1・2年前に実際受験生で、今、慶応にいるという人が横に付いて、「これをやったら良いんだよ」と言ってくれる教育環境なわけですよね。ですから、必然的に私学に入っていらっしゃる方というのは、そもそも所得水準が高い、という公式にどうしてもなってしまってはいるのですけれども、それだと結局ついていけないわけですよね。田舎にいるということがビハインドになってしまうわけです。ですから、私学に入れなくてもしょうがないかなという時代が終わろうとしていると思っています。

私、この会議に来るのが若干遅れてしまったのですが、先ほど何をやっていたかというと、これは松江と出雲の企業の方がやろうとしていることなのですけれども、「メタバース」という言葉が最近ありますよね。仮想現実・仮想空間において、アバターという自分の分身を出して、そこで出会ったりするのですけれども、その相談会をやろうとしているのです。東京の人に声をかけて、島根の物産展のような、特に食の会社が中心なのですけれども、そういったところが実際にブースを設けられて出展して、というのが仮想空間になっていて、それを見ていたら遅れました。

そういうことが現実に今やられているわけです。講堂みたいなところに行って、そうしたらSDGsの講演をしていたのです。それを後ろに座ってこうやって見れるのです。例えば、そのときに面白かったのは、自分で講演を主催できます。例えば300人の講演でした。800人の人が申し込んだら、席を一気に800席に増やせるのです。あるいは800人の講演なのですけれども、300人しか来なかったら、満員感を出すために300席に減らせたりします。それはECサイト、電子商取引のサイトにもつながっていて、物産展に行ったらそこを選んで押すと、すぐECサイトに飛んだり、あと、PayPayのQRコードが付いていたりして、携帯を使ってそこで買えるのです。要は完全にリアルとネットが融合しているわけなのです。

そういったことが今後ICTというか、デジタル化というか、その名のもとにどんど

んできるようになると思うのです。

ですから、言い訳できなくなるのです。「東京だから」とか「田舎だから」と言えなくなるというのを逆手に返して、多分我々はやれることがいっぱいあると思うので、そこを突き詰めていきたいなと。ですから、総合教育会議のテーマというかどうかは別なのですけれども、やはりそういう次世代の教育の在り方というか、もちろん気持ちがきちんと子供たちに伝わらなければいけない部分もあるので、完全に全部電子的なもので良いかというのは、それはやはり何か必要だと思うのです。

例えばこれはどういう感じになるか分かりませんが、本当に教育に長けている東京の人にリモートで教育を施してもらう機会であったり、電子黒板を使い、タブレットを使ってということが、多分いろいろなやり方ができてくると思います。逆に言うと、それを使うか使わないかで、学校ごとにも、あるいは担任の先生によっても全然学力に違いが出てくるということがあるのではないかというように思うのです。

ですから、そこを「島根県ってすごいね。何であんな田舎なのに、こんなに」と。それで先ほどの 7 割になっていくのかは別なのですけれども、「こんなに良い大学にたくさん入っているの」みたいなことだって、別に空想の世界ではなくなるのではないかというような思いを少し問題提起させていただいて、教育委員の皆さんからもご意見いただければと思います。

○金津委員

市長の言われる通り、何かそういう ICT とかを使っていろいろできることというのは多分もっともっとできるのだろうと思うのです。

学力向上にあたって私が思うことは、勉強する意義というか、何かそのことでいろいろ可能性が広がるとかが、子供なりに腑に落ちるというか、そういうことが何かあると良いと。「向上するにはどうするか」というように考える策を考えるより、「したくなるようになるにはどうしたら良いか」みたいに考えていくと良いのではないかなというように思っていて、今、商工会議所の会頭の田部長右衛門さんとときどきお話する機会があるのですけれども、長右衛門さんは、「本当に切り拓いた今の若手の経営者などの話を聞いてもらったりするのが良いのではないか」というような話をしています。そういうことを TSK さんの番組でもやられたりもしているのですけれども、子供が見ているのかなというと、なかなか見てなかったりもするのかなと。我々経営

者のほうが刺激になったりするのですが、子供たちにも何かもっとそういう機会があると良いのかなと。

それこそ先ほど東京でも何でも、今、講演とかオンラインで聞けたりしますので、そういう企画があっても良いのだろうと思います。「松江夢☆未来塾」で私もしゃべらせてもらっているのですけれども、もっと面白く、もっと夢を持てるような話をされる方は多分たくさんいらっしゃると思いますので、そういう企画とかも良いのではないかなと思います。

○原田委員

先ほどの金津さんのお話とも被るのですけれども、やはり子供というのは、やる気が出ると自分でどんどん学んでいくというところがあると思うので、例えば算数にしても、算数を何で学ぶのか、生活にどのようにつながっているのかというところとか、あと、自分好きなところとどう関わってくるのかが分かると、多分どんどんやる子はやっていくというところがあると思っています。

私も自分の息子が小 4 で、全然言っても宿題をしないのですけれども、かと言って何をやっているかというと、自分で工作をしていたりとか、あと、野球のフォームを自分で考えるとか、魔球を考えてみるとか、自分がやりたいことに関してはどんどん突き進んでいく。そのために読まなければいけない本はどんどん読んでいくし、難しい大人用の本でも読んでいくし、字を調べながらでも読んでいく。「これは何て読むのか」と聞きながら読むとか、そういうのも全部つながっていたりします。

例えばうちの子は小さいころは電車が好きだったのですけれども、電車が好きだということによって、まず時計が読めるようになったのです。「何時に来るかを知りたいから、自分で時計が読めるようになりたい」、「あと何分で来るかが知りたいから、何時に行ったら何分の電車が来る」とか、そういう計算もできるようになる。あと、「7 両編成のやくもが今回は 2 つつながっているから 14 両だ」という計算もしていく。そのうちに路線図が見たくなるので地図を見ていく。そうすると、どこの駅とかをどんどん覚えていって、何県の県庁所在地がどこだというのは、もう幼稚園のころからも知っていて、そういう感じで、好きなことに関してはどんどん自分で突き進んでいくのですけれども、こちらが与えるものに関しては全然興味がないので、言っても全然やらない。

ですから、その辺りをつなぎ合わせてやるというのが大人の役目かと思っていたりもして、その子のやりたいやる気のところを、例えばそれに社会の話とか理科の話とか組み込んでいくと、そういうところにもどんどん興味が広がっていって、学んでいく範囲も広がっていくのではないのかなというように思いました。

やはり各教科を学ぶにあたって、その教科の面白さをやはり一番に伝えることが大切で、算数嫌いとか理科嫌いなどと言われると、今、結構理科のほうは科学実験をやったりとか、出雲市だと科学館に行った子供たちが興味を持つとか、そういうのはあるので、そういう部分では算数もそのような手が使えるのではないかなというふうに考えたりしています。

○多々納委員

松江市も ICT 教育を実践するために電子黒板・タブレットを導入していただいて、教育現場も非常に使用が進んでいると思うのですが、タブレットに関しては環境整備がもっと必要だということです。実際に今コロナの状況で、コロナではなくてもそういうオンラインとかいろいろなことを経験してみますと、物事皆そうかも分かりませんけれども、一長一短があってすごく便利です。私の仕事でも 8 割くらいはオンライン化しておりまして、遠方の方と会議をしたり、あるいは研修を受けたりという、私の年齢でもそうなのだから、今の若い人たちはもっともっとそうなるだろうと思います。

しかし、それが全てではなくて、そういうことを経験して、その良い面とそうでない面を体験すると、対面の良さというものが分かるのです。3 月のはじめに県立大学で 4 日間オンライン講義をしました。もうこれは勘弁してほしいなという気持ちになったのですけれども、その反面、便利さといいますか、対面でできないところがオンラインでできるという良さとか、また、何か工夫することによって学生と私とのつながりができたとか、そういったこともあります。使えるのが当たり前という時代、その両方のメリットをやはり子供たちに十分習得させたいと。

そういう面から見ると、やはり ICT 教育の推進、子供たちの実態や先生方がどんな点でお困りになっているかとか、あるいは「素晴らしい」、「もっともっと」というお気持ちもあるし、それから使い方の工夫もいろいろ必要かと思います。先生同士の研修会とか情報公開とかも必要だと思います。是非令和 4 年度の総合教育会議には関連

したテーマを取り上げていただきたいなと思います。

そのことが市長や皆さんがおっしゃる次のいろいろな取組方に発展しますし、それから子供たちも本当にやってみるといろいろな工夫ができる、そういう子供たちですので、大いに発展させてもらいたいなと思います。

以上です。

○塩川委員

今、市長のおっしゃったことが本当に自然に普通にできるような時代になってほしいなと思います。ただ、現実的に学校の状況を見ますと、いろいろな諸課題があって、特に私は学力については、やはり二極化というのをすごく感じています。いかに学習意欲、実質的な学力の低下のある児童生徒をどのような形で支えていくかということが学校の大きな課題になっているのではないかと思っています。

特に、通常学級に在籍しながら特別な支援が必要な児童生徒は、中学校も小学校も各学級に 4、5 人いるような状況です。特に松江市の場合はエスコという全国に先駆けた組織、誇れるいろいろなシステムもあります。エスコは、実際機能してはいますけれども、各学校現場の実態に応じてもっと機能をすることを期待しています。

この状況を、もし来年度学校訪問の引き合いがありましたら、市長に是非実態として見ていただいて、皆で現状を知りながら、今後どのような手立てでボトムアップをしていくかというところを協議できたら良いなと思います。

エスコという松江独自の、全国に先駆けた機関もありますので、もっともっと今後も活用できれば、決して全国に負けない教育実践を、更に積み上げていけるのではないかと思います。

○寺本副教育長

ありがとうございました。教育長はいかがでしょうか。

○藤原教育長

時間が押しておりますので、ICT 教育が今後どのような展開を見せていくのかというのを次回の教育委員会会議で松江市の GIGA スクール構想をお示しすることにしておりますが、どういう方針でどういうことを目指していくのか、年次計画はこうだと

いうところはお示しできると思っています。

ただし、その計画を実践していくには、現状はあまりに各学校で実態がバラバラ、レベルもバラバラということで、確かにいろいろなハードルになっていることはあるのですけれども、私から言わせれば、それはできないことの言い訳でしかなくて、やっている人はどんどんやっていますので、教育現場でどんどん格差がついてきています。そのことは当然ですが、早期に解消すべき課題だというように思っていますので、そういったところはしっかりやっていきたいというように思っています。

昨日、成相副教育長から『ICT 教育の推進』というマンガをいただきました。すぐ読ませていただいて、一番心に引っかかったのは、今の学校教育というのは、先生がいないと学べない子供をつくっているのではないかということが書いてありました。要は、先生は教えすぎ。何でもかんでも教えて、自分で考えることができないというところがあって、やはり先ほど原田委員もおっしゃいましたけれども、やはり自分で学ぶ力を身につける。そこで得た知識を活用できることがすごく喜びになる。やはり自分で学ぶ力を身につけるということは非常に大切なのだろうなということはおぼろげながらに感じたところです。

以前も申し上げたように、学校から帰ると全く勉強しないという今の松江市の子供たちの現状を考えたときに、オンとオフのような、家に帰るとオフだというような感じがあるのかなと思ったり、そういう意味でもやはり興味・関心を持ったことを自ら学ぶ力を身に付けるということは、多分社会に出てからもとても役に立つ力であろうというように思っております。

いろいろなことを、今は走りながらということですが、どんどん状況に合わせて、変わっていくところはしっかり変化して対応できればというように思っています。そのためにも、私も 2 年目はもっと校長先生たちと話をしようと思っていまして、そういうことで着実にいろいろなことを変えていけるかというように思っているところでございます。

以上です。

○寺本副教育長

ありがとうございました。

予定しておりました時間がまいりました。市長、よろしいでしょうか。

○上定市長

はい。

○寺本副教育長

それでは、今、ICT の活用や学力向上、また、子供のやる気をどのようにしていくのか、あるいは特別支援教育も含めてご意見等もいただいたところでございます。これらのいただきましたご意見なども参考にさせていただきながら、来年度もまた総合教育会議をご案内させていただければと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それから、教育大綱につきまして、具体的な文言等についても少しご意見をいただきましたので、事務局で少し検討させていただきまして、改めて委員の皆様方にご確認をいただき、最終確定にしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事は以上でございます。これをもちまして令和 3 年度第 3 回の松江市総合教育会議は終了とさせていただきます。本当にありがとうございました。今後も引き続きよろしくお願いいたします。